

## 廃棄物（ごみ）Q&A

### Q：東京大学のごみも東京都が収集してくれるんでしょ

A：大学のごみは家庭からのごみとほとんど変わらなくても東京都が無料で収集はしてくれませんが、東京大学は多量の廃棄物を出す機関ですので、会社や工場と同じく「事業所」に分類されるため、大学で処理業者に委託して適正に処分しなければなりません。ごみの分別を行い、リサイクルをすすめることにより、ごみの減量化をお願いいたします。

### Q：なぜごみの分別が必要なのですか

A：地球環境を守るために、資源循環型社会の構築が提案されているなか、東京大学ではこれまで、生活系のごみを可燃ごみ、不燃ごみとして処分してきました。平成8年から新しい分別収集方法を工学系研究科・工学部の一部で先行導入し実績を積んだ結果、ごみ排出者の意識が高く、分別に対する協力度が良く、廃棄物の削減効果が顕著であったため、この方法によるごみ分別を導入することになりました。まずリサイクルできるものを資源として活用し、残ったリサイクルできないもののみが、可燃ごみ、不燃ごみになります。その結果、ごみとして処分する量を大きく減らすことが可能になります。

### Q：紙はどうリサイクルしたらいいのですか

A：大学の可燃ごみの半分以上は紙で占められています。そのほとんどは大きさを問わずリサイクル可能ですが、より質の高いリサイクルをするために「新聞、コピー用紙類（再生紙・上質紙）、雑紙（ちぎれた紙も含む）・雑誌、段ボール」に分類して下さい。紙用三段リサイクルボックスなどの分別容器を手元において、紙の分別を徹底し、可燃ごみの減量化をお願いします。使用済みのちり紙・カーボン紙・感熱紙・ビニールコーティングされた紙・紙コップ・紙皿などはリサイクル出来ないので、**可燃ごみカート**に入れて下さい。今まで焼却処分されていた機密書類は、学内巡回シュレッダー車で機密を保持しながら回収し、資源として再利用され、トイレトーパーなどになります。

### Q：飲料缶はどうリサイクルしたらいいのですか

A：大学では自動販売機設置業者に「空き缶回収ボックス」を置くように指導しています。なるべくここに入れるようにして下さい。ここに入れられた飲料缶は納品車で回収され、リサイクルされます。これを「缶の逆流システム」と呼んでいます。空き缶は**飲料缶カート**に入れても結構です。飲み残しがあると回収施設が不潔になりますので、必ず飲みきって、すすいでから入れてください。飲料缶は再生工場で磁気によりアルミ缶と鉄缶に選別され、それぞれリサイクルされます。

### Q：ガラスはどうリサイクルしたらいいのですか

A：ビール瓶・一升瓶は酒屋さんに返して下さい。メーカーに戻され再利用されます。その他の瓶類・試薬瓶（良く洗浄する）は蓋を取り除き本体のみ専用**コンテナボックス**に入れてください。工場で色分け後粉碎され、資源として再利用されます。実験系硬質ガラス・ガラスの破片などは**不燃ごみカート**に入れてください。

### Q：プラスチック類はどうリサイクルしたらいいのですか

A：ペットボトルとそれ以外のプラスチックをきちんと分けてそれぞれのカートに入れて下さい。ペットボトルは蓋を取り除き本体のみ**ペットボトルカート**に入れてください。集められたペットボトルはフレーク状にした後、衣類やカーペット等にリサイクルされます。

弁当容器・トレイなどのプラスチック類の再資源化技術（固形燃料化・油化）は、まだ確立されていない状態です。これはプラスチックが単品として集まらず、他のごみが入ってしまうからです。弁当などの食べ残しは生ごみとして**可燃ごみカート**に出してから**プラスチック類カート**に入れて下さい。このようにすることにより、リサイクルが容易となります。

東京大学 東京都文京区本郷7丁目3-1 TEL 03-3812-2111

経理部契約課用度掛  
内線2142  
FAX 03-3812-2542

環境安全研究センター  
内線2992（担当横山道子）  
FAX 03-5802-8904

この内容は環境安全研究センターホームページ  
(<http://www.esc.u-tokyo.ac.jp/>) に掲載しています。



平成11年4月1日より本郷キャンパスのごみの収集方式が変わります。  
分別の徹底によるごみの資源化（リサイクル）にご協力下さい。

# 変わります ごみ分別！

東京大学では大量の生活系ごみが発生しています。平成10年度には、本郷キャンパスのごみのほとんどが、「可燃ごみ」「不燃ごみ」として、リサイクルされることなく処分されてきました。そのため、処理（焼却）施設や処分場には大きな負担をかけてきました。

そこで、東京大学では「21世紀の環境の在り方」を考え、まず本郷キャンパスからリサイクルを進め、ごみとして処分する量を大幅に減らすことを目指し、「**発生源で徹底的分別**」の実施と、それを個別に収集するシステムを導入することにしました。

### 紙の分別

（主に紙用三段リサイクルボックス利用）

紙用三段リサイクルボックス

新聞  
コピー用紙類  
雑紙・雑誌



部局の指定した場所

段ボール

巡回シュレッダー車の導入

機密書類

### ごみの分別

（集積所の分別カートへ投入）

飲料缶  
ガラスびん  
ペットボトル  
プラスチック類  
可燃ごみ  
不燃ごみ



この方式は平成8年度から工学系研究科・工学部の一部で試験的に導入され、実験を重ねてきた方式です。この方式の導入により、実験地域のごみの排出量を大幅に抑制する事に成功しました。

東京大学環境安全委員会